

I-(1)-⑦ 地域再生プロジェクト

「児童と学生の協働的活動による地域のおもしろ発見と未来のまちづくりの協演ー 地域調査を通じた市街地マップづくりとポスターセッションー」

【概 要】

本事業は、「生活・総合学習指導論」の科目（土井・大谷・福田・高橋ち）において行うものである。また、協働する相手校は、鳥取市立遷喬小学校（栗岡玲子校長）であり、授業時間は「総合的学習の時間」である。

内容は、地域学部の学生（45名）と遷喬小学校3年生（約22名）と4年生（約22名）が、ともに地域に出て、地域の人やものに触れ合い、地域のおもしろさを知り、地域住民に、マップ（ポスター）を使って、街のよさ・未来のまちについてプレゼンテーションするというものである。

学生は3年生指導集団と4年生指導集団の2集団に分かれ、小学生集団とともに街歩きをし、遷喬地区の地域調査をする。小学校の各学年とも1グループ5人程度で5グループを構成する。そのグループに学生は同程度の人数が入り、同じようなテーマで調査行動を共にする。ただし、学生は自らのマップを作ると同時に、児童のマップづくりの指導もするのである。

当日のポスターセッションは遷喬小学校体育館にて実施し、地域住民にも広く呼びかける。

教育的な効果は、児童にとって学生と共に地域を歩くことにより、地域のおもしろさや良さを再確し、より深く知るとともに、地域に深い愛着を持つこととなる。さらに同じテーマで歩いた学生たちのマップの精度の高さや工夫を知ることとなる。一方、学生は鳥取市の市街地の実態を知る契機となるとともに、児童の発達状況、調査方法、プレゼンテーションの方法、地域住民の意識なども知ることとなる。最も大きいことは、児童と協演（競演？）することによる学びや調査への意欲は極めて高いものとなることである。さらには、地域住民や保護者がこのプレゼンテーションに参加することによって、児童の育ちにも関わっていること意識するとともに、さらには地域の課題を知る契機になる。

この実践は、本年度で4年目を迎える。小学3年生は一度この地域調査を学生と経験しており、4年生になると一段高いプレゼンテーションがみられる。ちなみに、昨年の学生プレゼンテーションは、遷喬小学校教員や参加した保護者から高い評価を得た。

当日のプレゼンテーション（昨年のもの）の流れは添付ファイルに示す通りである。また、添付ファイルのシラバスにあるように、遷喬小学校にバスを使い5回訪問することとしている。

【キーワード】 総合的学習の時間 児童と学生 協働的活動 地域調査 市街地マップづくり
未来のまちづくり ポスターセッション

【参加メンバー】 地域教育学科 教授 土井 康作（総括・授業構成、学校及び地域との連携担当）
地域教育学科 准教授 福田 恵子（分析・児童及び学生の感想文等担当）
地域教育学科 准教授 高橋 千枝（分析・児童及び学生の感想文等担当）
大学支援機構 教員養成センター 准教授 大谷 直史（分析・授業構成担当）

【計 画】

H25 本年度は、児童と学生とによる市街地マップづくりを行う取り組みの全プロセス及びポスターを画像記録する。児童・学生・保護者・教員の感想を実践記録化する。また学生は小学校3年生・4年生向け

の総合的な学習の時間に展開する“わがまちをいかに考えるか”とのテーマで学習指導案作成を課し、実践記録化する。次に、平成26年度に向け、前述の各実践記録を基礎資料として、児童・学生の地域への関心や学びがいかに変容するか、学びのプロセスの変容記録を分析のためのポートフォリオ記録用紙及び学生用の学習指導案を作成する。

- H26 本年度は、昨年度と同様に、児童・学生は実践を行い、ポートフォリオ記録用紙に記入する。次に、地域への関心や学びのプロセスや変容がいかになされているか、また小学3年生と小学4年生の学年間の学びの違いを明らかにするために、ポートフォリオによる分析方法を開発する。
- H27 本年度は、昨年度と同様に、児童・学生は実践をポートフォリオ記録用紙に記入する。地域への関心や学びがいかに変容するか、小学3年生と小学4年生の学年間の学びの違いについて、昨年度開発したポートフォリオ分析方法に則り、分析する。また、本実践の教育的効果についても検討する。

【地域連携先】 鳥取市立遷喬小学校（栗岡玲子校長）及び智頭街道商店街振興組合や五臓園ビルなど